

■ミカムから辿る靴産業の「今」と2025年春夏ファッショントレンド■ イタリア靴輸出は前年を割り込み、商況回復にブレーキ。

靴ジャーナリスト 大谷知子

●出展932ブランド、来場4万人強

2025年春夏シーズンに向けたミカムは、9月15～17日、ミラノ郊外のロー見本市会場で開催された。

今回もミカム単独ではなく、バッグ・カバンのミペル、アクセサリーのMilano Fashion & Jewels、それにアパレルのThe One Milanoとのジョイント展。コロナ禍発生以降、ずっとジョイント展となっており、この形は、今後も続くと思われる。また、最終日17日からは革を中心とした皮革製品素材の見本市リネアペレ、製靴など皮革産業関連機械見本市、シマック・タンニング・テックが同会場で開催された。

出展は、932ブランド。内訳は、イタリア国内が475、海外（イタリア以外）が457と発表された。コロナ禍以前は、ミカム単独で概ね1500だった。その約3分の2となっているが、これまでの経緯を見ると、コロナ禍以前のレベルに回復することはないと思われる。

これに対して来場者数は、4万950人と発表された。このうち海外からが45%を占め、来場国は140ヵ国。その中で活発な動きを示したのがスペイン、ドイツ、それにフランス。北米、つまり米国、カナダは2ケタの伸びを示した。アジアは、中国、次いで日本が目立ったとしている。

近年開催の推移を見ると、前回2月は4

万821人であり、今回は、前回はほぼキープした格好だ。同期開催では、昨年9月は4万2273人とミカム単独とジョイント展の違いはあるものの、コロナ禍以前の2019年9月の4万4076人に迫り、コロナ禍前の賑わいを取り戻すかに見えた。しかし再び4万人そこそこに戻っており、仕入れの場としての見本市のパワーが後退していることを思わせる。

●新設の“THE MICAM ACADEMY”

その分というか、ミカム、つまりはイタリア靴メーカー協会は、プレゼンテーションゾーンである“MICAM X”に力を入れている。そのテーマは、デジタルイノベーションとサステナビリティ。今回は、“Future of Retail（小売業の未来）”と題して、仮想現実（VR）と拡張現実（AR）、靴の3D構築など、靴業界向けの高度なソリューションを提案する企業を紹介した。



1号館に設けられた“MICAM X”



"THE MICAM ACADEMY"に集った学生たち



ニットアッパー製造の実際を見る学生

ブースを設けたのは、例えば大規模な3DとARを統合し、ウェブやモバイルアプリケーションで靴、メガネ、時計を仮想的に試着できるShopARなど。ShopARは、ジミーチュウ、UGG（アグ）など200を超える大手企業が導入していると言う。

そして今回、新設したのが“THE MICAM ACADEMY（ミカム・アカデミー）”。これは、靴学校のポリテクニコとアルストリアの協力によって、若者に靴づくりの新しい技術を紹介し、そのテクノロジーと職人技との組み合わせが、靴づくりに何をもたらすかを具体的に提示しようというものだ。足の測定と仮想フィッティング用アプリの使用体験、靴を3Dで設計しその現実の形を没入型リアリティ技術によって確認する体験、またスニーカーで一般化しているニット製アッパーをデザインし、それを生産に繋げる方法を体験するといったことが

行われた。

協力した靴学校のうちアルストリアは、日本の業界も古くから留学生を送っておりよく知られている。もう一つのポリテクニコに触れると、ヴェネト州にある靴専門の工科大学。同州のリヴィエラ・デル・ブレンタという地域は、高級靴の産地として知られるが、工科大学は設立当初から同地域と深い関係性を持っている。同地域の著名靴メーカーの熟練技術者が指導者として出向き、卒業生の95%が同地区の靴メーカーで働いているという。同校のホームページには、リヴィエラ・デル・ブレンタ靴産地の専門的、技術的、文化的遺産を保存、伝承し、さらに充実させることがミッションであると記されている。

以上を言い換えると、自らの産業を維持・発展させるには、それを担う人材は、自らが育てるということになる。 “ミカム・アカデミー”は、その精神を体現したものとと言える。

●2024年上半期輸出は数量、金額共に減

では、イタリア靴産業は、経済的にはどのような状況にあるのか。公表された2024年上半期の輸出データから探してみたい。

2024年1～5月の輸出（表1参照）は、50億2272万ユーロ・8191万5000足となった。前年同期比は、それぞれ8.5%減・6.8%減。コロナ禍発生前の2019年同期比は、金額19.1%増、数量10.8%減となった。

コロナ禍発生以降は、2022年に目覚ましい回復を見せ、2023年は、上半期は回復の流れを継続したが、後半に陰りを見せ始めた。続く2024年第1四半期は悪化の予兆程度に留まったが、第2四半期に明らかな悪化を示し、前記のとおり、金額、数量ともに前年同期を下回った。

輸出相手国別では、パートナーである

EU全体（英国の離脱により27ヵ国）への輸出は、25億2039万ユーロ・5602万1000足。前年同期比は、それぞれ1.6%減・2.4%減で、わずかな減少に留まった。

輸出国トップは、フランス。前年同期比は、金額2.6%増、数量1.5%増と堅調。また2019年同期比は、金額49.3%増、数量3.0%減。平均単価は54.0%増を示し、物価上昇の影響はあろうが、より単価の高い製品が牽引していることを示している。

数年前まで輸出国トップだったスイスは、ラグジュアリーブランドの輸出ハブという役割を失ったことによって後退したが、前年同期比は金額54.7%減、数量39.8%減となり、輸出国順位は第4位とさらに後退した。

また、ドイツは金額11.0%、数量6.3%のそれぞれ減で、輸出国第3位となった。逆にスペインは、金額13.7%、数量0.9%のそれぞれ増加を示している。

ドイツに代わり2位となったのは、米国。但し、前年同期比は、金額3.5%、数量14.7%のそれぞれ減少だ。

かつて輸出の牽引車だったロシアは、ウクライナとの紛争開始により2022年に大幅なダウンとなった後、2023年は回復を示したが、2024年は金額21.7%減と再び減少に転じている。ロシアの国内経済は好調と聞くが、紛争開始以降、西側諸国は履物についても一定金額以上の輸出を禁止する制裁措置を講じている。その影響もありそうだが、再び減少に転じた明確な要因は定かではない。

大幅な伸びを示しているのは、中国と香港。中国は金額12.6%増、香港は同22.6%増を示し、中国の2019年同期比は、金額121.2%、数量61.8%のそれぞれ増加となっている。しかしこれらの数字を明らかにしたイタリア靴メーカー協会のレポートは、中国、香港向けの増加について「高級ブラ

表1：イタリア2024年1～5月の靴輸出

輸出国	2024年1～5月			対2023年同期比			対2019年同期比		
	金額	数量	平均単価	金額	数量	平均単価	金額	数量	平均単価
	100万€	1000足	€	%	%	%	%	%	%
1) フランス	992.96	16,038	61.91	+2.6	+1.5	+1.1	+49.3	-3.0	+54.0
2) 米国	596.20	6,730	88.59	-3.5	-14.7	+13.2	+47.6	-5.3	+55.8
3) ドイツ	479.58	12,047	39.81	-11.0	-6.3	-5.0	+14.1	-15.2	+34.6
4) スイス	336.47	3,238	103.90	-54.7	-39.8	-24.8	-53.8	-57.3	+8.3
5) 中国	283.46	1,523	186.15	+12.6	+25.3	-10.1	+121.2	+61.8	+36.7
6) スペイン	232.87	5,604	41.55	+13.7	+0.9	+12.6	+53.9	+6.4	+44.6
7) オランダ	174.84	2,499	69.96	-1.7	-4.0	+2.4	+95.2	+19.3	+63.5
8) 英国	168.00	2,667	63.00	-8.0	-14.4	+7.5	-37.8	-56.4	+42.8
9) 香港	150.84	676	223.21	+22.6	+6.2	+15.4	+2.4	-28.6	+43.5
10) ポーランド	146.30	4,999	29.27	+7.4	+21.9	-11.8	+156.0	+149.2	+2.7
11) UAE	135.65	802	169.15	+23.8	-6.5	+32.5	+163.1	+34.1	+96.3
12) 韓国	106.5	579	183.92	-27.4	-30.0	+3.6	+8.3	-33.2	+62.0
13) 日本	101.02	762	132.62	+0.1	+0.2	-0.1	+18.8	-27.7	+64.4
14) ロシア	92.37	1,502	61.51	-21.7	-16.7	-6.1	-20.0	-25.9	+8.0
15) ベルギー	89.88	1,823	49.31	-17.7	-37.7	+32.1	+2.9	-21.8	+31.5
...									
20) メキシコ	38.68	247	156.52	-8.1	-18.3	+12.5	+40.4	-15.4	+65.9
...									
39) ウクライナ	13.87	182	76.31	+21.9	+0.3	+21.5	-23.9	-39.2	+25.2
...									
合計	5,022.72	81,915	61.32	-8.5	-6.8	-1.9	+19.1	-10.8	+33.5

データ出所：Confindustria Moda Research Centre（イタリア統計局データより算出）

ンドは、以前はスイスのハブを經由していたが、現在は最終目的地の市場に直接出荷している。中国、香港の増加は、高級ブランドの流通政策の変化に照らして解釈されるべきである」とコメントしている。

靴は、イタリアの重要な輸出品目だ。前記のレポートの解説には、「輸出が生産の85%を占める」とある。輸出の不調は当然、靴メーカーの経営を圧迫する。イタリアでは経営難に陥った企業に従業員への給与支払いを支援する制度があるが、レポートは、この制度の利用が上半期で138.5%増加し、コロナ禍発生前の4.5倍のレベルに達した。また靴工場は、昨年12月と比較し107件、従業員数は2359人減少したと伝えている。

●イタリアの輸入平均価格は4万円台も

では、日本向け輸出は、どうなのか。

日本は、輸出国中13位。因みに一つ上の12位は韓国、逆に一つ下の14位はロシアだ。

2024年1～5月の輸出金額は1億102万ユーロ、数量は76万2000足。前年同期比は、金

額0.1%増、数量0.2%増。2019年同期比は、金額18.8%増、数量27.7%減。コロナ禍前のレベルに回復するには至っていないが、前年同期比の数字からすると下げ止まったという見方もできそうである。

この輸出を日本側から、つまり日本の靴・履物輸入から見ると、2024年上半期靴・履物輸入（表2参照）は、3億799万5000足・3458億9000万円。前年同期比は、数量4.1%減、金額は0.0%。また2019年同期比は、数量8.6%減、金額21.4%増となった。

輸入相手国別では、代表的輸入国のイタリアと中国を集計したが、下記のとおりとなった。

イタリアの前年同期比は、数量4.6%減、金額10.6%増。2019年同期比は、数量27.5%減、金額57.7%増。

中国の前年同期比は、数量2.4%減、金額1.8%減。2019年同期比は、数量10.0%減、金額5.0%増。

両国とも2019年同期比の金額は増加を示しているが、これは為替相場の変動を無視できない。

表2：日本の2024年上半期靴・履物輸入

	HSコード	2024年1～6月		伸び率			
		足数(千足)	金額(百万円)	対2023年同期		対2019年同期	
				足数	金額	足数	金額
靴・履物全体	6401	8,179	7,142	-3.3%	-3.6%	-14.5%	9.0%
	6402	86,728	107,893	-2.9%	-2.0%	-17.4%	24.2%
	6403	18,406	94,249	-7.7%	1.1%	8.3%	46.3%
	6404	166,750	129,340	-5.2%	0.9%	-9.8%	6.0%
	6405	27,932	7,266	1.0%	3.6%	36.1%	43.9%
	合計	307,995	345,890	-4.1%	0.0%	-8.6%	21.4%
イタリア	6401	1	26	862.7%	7270.2%	-19.3%	507.8%
	6402	103	1,287	19.3%	-3.9%	-45.3%	14.6%
	6403	663	25,248	-3.8%	17.7%	-22.9%	68.3%
	6404	148	6,479	-18.0%	-6.8%	-28.8%	37.2%
	6405	5	141	-25.9%	-37.0%	-55.8%	-24.7%
	合計	920	33,180	-4.6%	10.6%	-27.5%	57.7%
中国	6401	7,943	6,648	-1.3%	0.1%	-12.6%	10.7%
	6402	65,925	59,903	-2.5%	-3.8%	-20.3%	12.4%
	6403	2,622	9,937	-11.2%	-9.9%	-23.6%	0.4%
	6404	130,863	59,545	-3.5%	0.7%	-10.5%	-4.2%
	6405	25,796	5,640	4.4%	8.2%	47.1%	55.0%
	合計	233,148	141,673	-2.4%	-1.8%	-10.0%	5.0%

データ出所：財務省「貿易統計」

2019年のドル相場は平均109.0円、これに対して今年10月までの平均は151.1円（いずれもインターネットサイト「世界のネタ帳」より）。対ドル円レートは、2019年より4割近く下落している。これからすると、2019年比5%程度の増加では、為替相場の変動に食われ、実際の増加には至っていないと言わざるを得ない。

また、イタリアの輸入平均価格を出してみると、輸入全体で約3万6066円。HSコード別では「6403=革靴」が約3万8074円、「6404=甲がテキスタイル製」は約4万3705円となる。輸入はCIF（運賃・保険料込み）価格で集計されるが、小売価格をその3倍とすると、いずれも10万円以上となる。ラグジュアリーブランドの革靴やスニーカーの小売価格を調べてみると、10万円以上が一般的だ。

つまりイタリアの金額増を支えているのは、ラグジュアリーブランドの高級靴。イタリアに反して中国がコロナ禍前のレベルに至らないのは、ボリューム市場が活力を取り戻していないからと言えそうだ。

また、国内の状況について、この6月に公表された全履協（全日本履物団体協議会）による「日本の履物統計」の2023年国内生産の数字を見ると、次のようになっている。

革靴 979万1000足

ケミカルなど革靴以外計 2276万足

革靴は、2021年に1000万足を割り込み、翌2022年に1000万足台に戻したが、再び1000万足を下回った。

今後、再び1000万足台に戻し、そのレベルを維持できるかと言うと、それは疑問だ。

ミカムの項で“ミカム・アカデミー”を紹介した。生産が振るわない中で人材の育成には目が向かないだろうが、自らの産業の維持・発展のためにそれを担う人材は自ら育てるという観点に立つなら、生産が1000

万足を割り込む状況だからこそ、人材の育成に着目すべきではなかろうか。

■2025年春夏トレンド■

ミカムが来場者に提供している「BUYER GUIDE」を元に2025年春夏トレンドをまとめてみたい。

「BUYER GUIDE」は、「Livetrend」というファッショントレンドを分析するプラットフォームとのパートナーシップで作成。マーケット動向、インスタグラム、インターネットの検索データ、それにさまざまなブランドのファッションショーから得たデータを独自のアルゴリズムで解析し、消費者の興味を引きつけるトレンドやアイテムを導き出している。

導き出したのは、4テーマ。そのテーマに叶うアイテムを市場性によって三つのレベルに分類し、具体的なスタイルを提示している。

各スタイルは、次の三つのアイコンで分類し、市場性が示されている。

【炎】成長が期待できるが、規模が小さくリスクが高い

【棒グラフ】着実に成長する中程度のトレンド。商業的可能性がある。

【ショッピングカート】商業的ポテンシャルが確認できる大きくて安定したトレンド

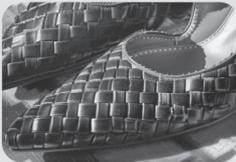
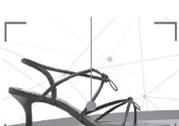
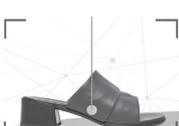
次ページのトレンドをまとめた図では、市場性のレベルごとに有望そうなスタイルを一つ選んだ。

【TREND 1】 HEIRLOOM

エアルーム 家宝

英国では“Heritage”が使用され、“Heirloom”は“Heritage=遺産、伝統”と同義。「洗練された伝統」という副題が付けられている。意味するところは、英米の伝統的スタイル、つまりトラッドや カントリースタイ

■BUYER GUIDEが提案する2025年春夏トレンド■

エアールーム 家宝 HEIRLOOM	アヴァンギャルド 前衛 AVANT-GARDE	エンパシー 共感 EMPATHY	プリザベーション 保存 PRESERVATION
			
			
CRAFTED HERITAGE QUAINT	TWISTED PREPPY VIBRANT FUN	PURE INTIMATE SENSITIVE	MINIMAL INNOVATION FUTURISM
技巧/伝統/古風	奇妙なプレッピー/ 活気/楽しみ	純粋/親密/敏感	ミニマル/革新/ 未来主義
			
			
			

ルの要素に着目しつつ、キーワードにクラフテッド（技巧）、クイント（古風）の他にエキゾチック、さらにコパカバーナも上げられている。つまり、伝統的トラッドに南米の海辺における民族調を取り入れた、トラッドをベースにしたリゾートスタイルが意図されている。

色は、夕陽に焦がされたような茶、クレイのようなオーク、ハイビスカスのような赤など。

素材は、メッシュやオイリーな革、ラフィアなどの天然植物素材。アクセサリでは

花モチーフや組紐など。

具体的な靴スタイルは、メッシュの高寸プレーンパンプス、トング型やストラップデザインのサンダル、またジュートを使用したエスパドリーユのようなスリッポンなど。

【TREND 2】 AVANT-GARDE

アヴァンギャルド 前衛

アヴァンギャルドとは「前衛」ということだが、ここで意味することは少し異なる。副題に「クラシックの再考」、またキー

ワードに「奇妙なプレッピー」とあるように、1980年代に注目されたトラッドスタイルであるプレッピーをリファインする。それを「アヴァンギャルド」と表現していると言える。では、どのようにリファインするかというと、ラウンドトゥをスクエアトゥに、ストラップを太くする、また非対称のデザインを取り入れるといったことだ。

色は、スモーキーがかったパープル、ブルー、グリーン、オレンジなど。

素材は、スポーティなメッシュ、カジュアルなテキスタイルなど。ディテールでは、角張ったトゥ、バックレスデザインなど。

具体的なスタイルは、トングスタイルのヒールサンダル、メリージェーンのアレンジ、レトロなスニーカーなど。

【TREND 3】 EMPATHY

エンパシー 共感

副題は「内省的なミニマリズム」。ミニマリズムは、1980年代に注目された、装飾を排し極限までシンプル化したスタイル。シンプル化すると冷たい印象になりがちだが、そこまではいかないミニマルという意味で内省的という言葉を使っている。要するに温かみを感じさせるミニマル。

そこで素材は柔らかいナッパ、あるいはスエード。ディテールは、ドレープや自然な感じのくせ付けなどとなる。

色は、パステル系の淡いピンク、ブルー、ベージュ。また強めのエンジなど。

具体的なスタイルは、ベルトにギャザーを寄せたミュール、ストラップデザインのバレリーナやヒールサンダルなど。

【TREND 4】 PRESERVATION

プリザベーション 保存

副題は「サバイバル物語」。環境破壊、自然災害が多発する中で、その世界を生き

抜くためのファッションを意図している。持続可能性を考慮した素材や雨から守るゴムコーティングなど、実用性、耐久性に優れた素材に着目しつつ、その中に未来的イメージを取り込むといったイメージだ。

色は、スモーキーなトーンのブルー、グリーン、オーク、グレイなど。

素材は、ストレッチなどテクニカルな特徴を持ったニット素材、洗練された仕上げ、例えばエナメル、また雨の浸入を防ぐ素材や加工処理。ソールのデザインも重要であり、存在感のあるモールドソールやアウトドア系、またプラットフォームにも注目。

具体的なスタイルは、ストレッチ素材などのブーツ、存在感のあるモールドソールのスニーカーなど。

付け加えると、パリコレクションなどでは、ロングブーツ、ブーツと見え方が共通するスタイルとしてパンプスとハイソックスの組み合わせが散見される。手軽さという点で、ハイソックスとの組み合わせは注目しても良さそうだ。

また、気候変動によって夏が長くなっており、サンダルの重要性が増している。サンダルのデザイン傾向は、フラット、ヒール物を問わず、親指と隣の第2指で挟んで履くトングスタイル、指先がちょこっと覗くピープトゥ。その他、メリージェーンのアレンジや多様なストラップデザインがポイントだ。

さらに、気候変動によって春夏秋冬の4シーズンが失われ、冬と夏の2シーズンになりつつある。この変化に対応するマーチャダイジングが求められており、ウォーキング的な靴種やスニーカーを年間定番とし、そこに盛夏と真冬を付け加えるといった考え方が必要になっているように思われる。